

研究タイトル：

血縁・地縁ネットワークから形成されるギリシア国民意識

氏名：	松浦真衣子	E-mail：	m_matsuura@yuge.ac.jp
職名：	准教授	学位：	文学修士
所属学会・協会：	東欧史研究会		
キーワード：	近代ギリシア ナショナリズム グローバルヒストリー		
技術相談 提供可能技術：	・世界史 ・ヨーロッパ近現代史 ・ナショナリズム論		



研究内容：

1. 近年の主な研究

①2017 - 2020 年にかけて、科研プロジェクト「近世・近代のヴラフ人の移動と集団形成に関する基礎的研究：バルカン・中欧・新大陸」に参加した。これ以降、バルカンの言語的マイノリティであるヴラフ人が 18 世紀以降、ヨーロッパ大陸を横断する広範な商業・知的ネットワークを形成していく過程を研究している。ギリシア独立戦争前に、「ギリシア共和国」構想を提示し、独立運動のシンボルとなったりガス・フェレオスもヴラフの出自を持つと伝えられている。啓蒙思想をバルカンにもたらす血縁・地縁ネットワークがヴラフ人の商業活動を通じていかに形成されたか、そしてマイノリティでありながらギリシア国民国家建設に寄与していくヴラフ人の国民意識がいかに形成されたかを研究している。

②2018 年より、プロジェクト「キクラデス諸島の社会的ネットワーク再編による国民国家建設」を進めている。キクラデス諸島はエーゲ海に位置するギリシアの島々で、ギリシア独立戦争で一時的に首都となったシロス島を含む。また、独立戦争中に奇跡を起こすイコンが発掘されことから国民国家の宗教的巡礼地となったティノス島、独立戦争後に啓蒙思想と神秘主義を融合した教育を行い異端裁判にかけられたセオフィロス・カイリスの島アンドロスもキクラデス諸島に含まれる。キクラデス諸島はギリシア国民国家が誕生していくうえで、さまざまな社会階層・地域が新しい社会像を提示し、拮抗しあう舞台であった。研究を進めていく中で、この島々のつながりが海運であり、シロス島＝造船所それに付随するサービス業、アンドロス島＝船主・船員の供給地、ティノス島＝船員の供給地であり国民宗教のシンボル、という関係が見えてきた。この中で、アンドロス島は「小さなイングランド」と称されるほど海運で成功し、島社会の中には船主・船長・船員という社会階層が形成されていった。海運業に属さない女性や他業種も船主を中心とした地縁・血縁ネットワークの中に組み込まれ、海運の発展を支えた。海運を通じた地縁・血縁ネットワークの形成が、ギリシア国民意識の形成にどのように関与していったかが主要なテーマとなる。

2. 主要な研究課題と概要

近代ギリシアのナショナリズムを主な研究テーマとしている。ギリシア国家は、1821 年から 1830 年まで続く独立戦争の結果、オスマン帝国から独立した。その際、1-②のキクラデス諸島を含むギリシア本土の一部がギリシア国家として成立し、1-①のヴラフ人居住区の多く(マケドニア、イピロス地方など)は 1913 年まで未回収の地としてオスマン帝国に残された。それぞれギリシア国家に編入された時期が異なるが、両地域とも啓蒙思想が発展し、ギリシア国家建設を支える国民意識が芽生えた場所でもある。この両地域の共通点をたどっていくと、両地域とも物流ネットワークが発展した地域であることが分かる。ヴラフ人は 18 世紀に、ウィーンとイスタンブルをつなぎ、陸のキャラバン輸送ネットワークを紡いでいった。キクラデス諸島は 19 世紀から海運が発展し、イギリス、フランス、黒海にギリシア人居住区を形成しながら世界に広がる物流ネットワークを完成させていった。両地域とも現代のギリシア国家の国境をはるかに超える地域を活動の場としてネットワークを築いてきた。このグローバルなネットワークが様々な地域と拮抗する中で、いかにして現代のギリシア人意識が形成されていったかを研究している。

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	